

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野地域子ども元気プロジェクト事業 (防災キャンプ)
事業主体 (連絡先)	長野広域連合 長野市松岡二丁目 42 番 1 号
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,695,455 円 (うち支援金 : 2,021,000 円)

#### 事業内容

- ・長野地域の子ども達を対象に防災講習をメインとした防災キャンプ体験を行った。
- ・非日常の体験も楽しみながら、いつ遭遇するかわからない災害に対して、長野 U スタジアムで宿泊避難体験をすることで、防災意識の向上に繋げる機会とした。
- ・令和元年東日本台風災害を教訓とした講習や備えておきたい防災グッズの紹介、非常食体験を行った。
- ・募集チラシによる環境クイズを行い環境問題についても考えてもらうようにした。
- ・防災キャンプ体験 (10/1~2)
- ・参加者 計 28 組 延べ 80 人



【防災講習の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①防災意識の向上
- ②環境問題についても考える機会を設ける
- ③子ども達を元気にする

#### 事業効果

- ①令和元年東日本台風の状況や災害への備えについて講師の方から説明をいただき、備蓄食料の非常食体験をすることで、災害をより身近に感じてもらえ、参加した親子からは、改めて災害について備えの必要を感じたという感想が寄せられた。
- ②普段、中々立入ることない長野 U スタジアムでテントを張って宿泊するなど、非日常が楽しく防災を学べる機会となった。
- ③自分達が組み立てたテントの中で一夜を過ごすことにより親子で災害について改めて話し合う機会を作ることが出来た。

#### ※自己評価 【 B 】

##### 【理由】

- ・災害時に備えておくべきものを改めて考えてもらえた。
- ・簡単な環境クイズから環境問題にも関心を持ってもらえた。
- ・防災について楽しく学べる機会となった。

#### 今後の取り組み

事業の実施内容等を関係市町村で共有することにより、今後の関係市町村での取り組みに活かしていく。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続いていることから、子ども達の元気に繋がる「長野地域子ども元気プロジェクト」については、バージョンアップしながら、引き続き取り組んでいきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	365日大学 第3期
事業主体 (連絡先)	365日大学 長野県長野市西和田1丁目4-15
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,796,211円 (うち支援金: 3,036,000円)

#### 事業内容

シニアの孤立化、IT難民化、フレイル化等の社会的課題の解決、健康寿命の延伸、そして well-being の生活をおくれる社会をつくることを事業目的として、主に、次の事業を実施しました。

- Zoom を活用したオンライン講座  
特別講座【①サキベジ健康講座】  
【②ボイスフィットネス講座】  
【③フレイル予防講座】 を含む
- 脱炭素農業推進、ブルーベリー園開設
- マグネット健康吹矢講座
- グリーンツーリズム (トレッキング)
- SBC ラジオ『武田徹のつれづれ散歩道』の中に  
365日大学生出演コーナー開設



【講座の様子 (ヨガ)】

#### 【目標・ねらい】

- ①シニアの IT 難民化阻止
- ②シニアの孤立化阻止
- ③シニアのフレイル化阻止
- ④耕作放棄地拡大阻止

#### 事業効果

- 令和4年1月時点で約60名だった会員数は、令和5年3月現在82名へと着実に増加しました。
- Zoom オンライン講座の実施により、IT 難民化の防止とフレイル予防につながっています。
- 脱炭素農業の実施により、脱炭素の一端を担えることを学び、また、農作業を通じて、体力面の維持にもつながっています。
- グリーンツーリズム (トレッキング) 及びマグネット健康吹矢講座の実施により、運動面での効果はもちろんのこと、フレイル予防につながります。
- SBC ラジオへの会員出演により、明日への活力が湧き、フレイル予防、健康寿命延伸へつながります。

#### ※自己評価【A】

【理由】具体的な成果事例を紹介します。  
2022年10月に入学したNさん。入校前と違って頭も良くなり、人に頼らない生き方を知ったと言う。転勤族の娘夫婦と暮らし、横浜から長野に移住してきたが、365日大学に入校後、娘夫婦との同居を止め、長野で1人暮らしを始めることができた。今は、365日大学があるので、毎日充実している、と。このような人が増えています。

#### 今後の取り組み

次年度以降も、基本となる講座事業の継続、更なる進化を進め、更なる会員増へとつなげます。今年度、残念ながら休止となったブルーベリー園についても、環境、体制を整え、再度チャレンジしたいと考えています。ブルーベリーも含めた農園関係、様々なサークル活動の充実もはかり、更なるシニアの生きがいづくりに取り組んでいきます。

特に次年度は、各事業所 (人が集まる場所、お店) に協力をお願いし、サテライト局を作ります。サテライト局は一種のパブリックビューイングです。その場所に来れば、365日大学の講座を受けられます。現在、実験的にシューマート川中島店、シューマート for foot のお店で、毎週1回 (火曜日) 実施しています。

次年度、住宅展示場、高齢者施設等に、サテライト局を作っていく予定です。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	中条移住お助け事業
事業主体 (連絡先)	中条地区住民自治協議会 長野市中条 2383-1
事業区分	(6) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,698,978円 (うち支援金: 1,277,000円)

### 事業内容

長野市中条地区は人口減少に伴って、空き家が増加し消滅する集落が増える中で、地域住民の協力のもと新しい組織づくりを行い、移住希望者の受け入れを行った。

そのため移住交流の中心施設とするため、空き店舗を利用した、新たな活動拠点の整備を行った。

- ・移住者対策のためのワークショップ (16名 10月)
- ・移住・交流体験 (野沢菜収穫 4名 11月 味噌づくり 4名体験 1月)
- ・団体育成に伴う移住者交流会 (17名 1月)
- ・活動拠点整備 (上下水施設修繕 交流会場 宿泊場所整備)



【WSの様子】

### 事業効果

- ① 多くの人 (移住者等を含めて) に地区内の空き家の現状を知ってもらい、対策に目を向けてもらうきっかけとなった。
- ② 新たな「集落再熟プロジェクト」の立ち上げが実現の見通しができた。  
農業体験などを通じて地区の魅力発見や、山村での暮らしを案内することができた。
- ③ 中条地区の交流事業の核となる「移住交流センター」を開所することができた。

### 【目標・ねらい】

- ① 空き家発掘のため意識改革
- ② 移住者、希望者へのお助けに加えて空き家所有者への方付け等お手伝いをする会の発足
- ③ 交流センターを利用して交流人口の増加を図る

※自己評価 【 B 】

### 今後の取り組み

- ① 集落再熟プロジェクトの活動を充実して、空き家の情報を収集して発信する
- ② 集落再熟プロジェクトの活動として空き家等の周辺整備や環境の整備に取り組む
- ③ 移住交流センターを活用して、簡易宿所、コワーキングスペースとして利用促進を図り、交流人口の増加を図る

### 【理由】

- ・ハード事業は予定とおりに修繕が出来たが、移住体験、交流の体験会等は宿泊での計画をしたところ、宿泊希望者はなく日帰りのイベントとなってしまった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ワーケーションまちづくり事業2
事業主体 (連絡先)	株式会社ふろしきや 代表取締役 田村 英彦 090-1957-1073 tam@furoshiki-ya.co.jp
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくり (6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	9,948,320円 (うち支援金: 4,935,000円)

## 事業内容

ワーケーション来訪者と地元市民との交流を軸に、多くの出会いとまちづくりにつながるプロジェクトを生み出す事業。支援2年目として、千曲市そして長野県でのワーケーション/信州リゾートテレワークの定着と広域的な啓蒙、そして全国へのアピールを継続してきました。新たな価値を付加し、「ワーケーション・ウェルカムデイズ」を5、8、11、2月に開催。R4年度で計170名の参加者、合計266泊の宿泊需要。来訪者数の数もさることながら、千曲市はもちろん、訪問だけでなく企画段階での参画連携のもと、長野市から南は軽井沢町まで活動範囲が広がり回遊が生まれた。温泉MaaSも昨年からの同機能の使い勝手向上に加え、より大人数の移動を確保するために、独自の市バスやしなの鉄道のデジタルフリーパスの開発に繋がりました。ワーケーションのみならず新しい公共交通のサービスにつながるツール作りに繋がったことは非常に大きな一歩である。

- ・ワーケーション・ウェルカムデイズ実施: 5、8、11、2月
- ・R3年度参加者: 170名、266泊 ・温泉MaaS登録数: 491名(3/22現在)
- ・電子チケット利用数: 422枚 ・デジタルフリーパス配布: 125枚
- ・企画・訪問連携: 長野市、千曲市、上田市、東御市、小諸市、佐久市、軽井沢町

## 事業効果

## ①事業者への経済効果と交流増

ワーケーションウェルカムデイズにより、参加費に加えて、遠方からの交通費や宿泊代、飲食費含めると経済効果は1000万円を超える試算。地元の人との交流機会やディスカッションの機会も設けるため、少なくとも1000を超える人と人との刺激と出会いを含んだ交流が生まれ、その交流を元に、個人から企業の研修や視察、個人的な観光旅行など幅広く波及効果が生まれている。

## ②システム→事業者への波及効果

昨年同様、LINEを入口にした温泉MaaSが千曲市でも浸透し、事業者の横のつながりが広がっている。さらに、市バスやしなの鉄道のデジタルフリーパスを皮切りに人流データの提供やそれに伴う新しい取り組みやサービスの企画につながっている。温泉MaaSチケットに加えて、デジタルフリーパスの配布/利用も昨年からの大きな上積みである。

## ③地域DXへの第一歩

ゼロカーボンと関わる形でキャンプでの学びの場、公共交通の利用促進のための温泉MaaSでのデジタルフリーパスの取り組みなど、実利用者の人流に加えて、社会的な発信も強めており、広域的な取組につながっている。

## 今後の取り組み

千曲市を中心にワーケーション提携先としてコロナする地域を増やしていく段階で、ここ数年、長野県において活発なビジネスパーソンの存在や面白いプロジェクトが数々起きていることに気付かされました。どのプロジェクトも地域思考でありながら、地域内外の多くの人と関わりしるがあり、またそれを当事者も求めていました。その一方で、長野県が広域であることもあり、地域間のコラボレーションの機運がそこまで醸成されていない部分を県関係者とも話すす中で浮き彫りになっています。

ここ2年取り組んできた「温泉MaaS」もワーケーションでの滞在応援ツールとして機能するのに加え、昨年度は千曲市公営バス、しなの鉄道のデジタルフリーパスとしての広域回遊に向けた社会実験も重ねて来ました。その効果もあり、信州千曲観光局を中心とした観光振興団体での新しい観光旅行商品向けのツールとしての有用性への気付きが広がり、内々ではMaaSの主体を信州千曲観光局を中心とした運用を見据えたシステムとしての構築・運用の可能性を模索しており、これまで社会実験を牽引してきた効果が地域振興団体の今後の事業への受け渡しにも進む流れができています。そこで、温泉MaaSとしては、便利だけでなく、より広域に人の出会いと回遊を促進するきっかけとなる情報提供の部分より強く方向性を計画しており、定期的に人が動き出会う人流づくりを目標にしたいと考えています。イベントに関しても人が動き出会う人流づくりを加速させるコンテンツとします。長野県の信州リゾートテレワークの資産を活かし、交流拠点のコーディネーター、スタートアップ界限、キーパーソン同士の交流増を狙う県と一緒に事業を進めていく予定です。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【ワーケーションの様子】

## 【目標・ねらい】

- ①事業者への経済効果と交流増
- ②システム→事業者への波及効果
- ③地域DXへの第一歩

## ※自己評価【A】

コロナが下火に向かう中、昨年の個人として動いていた人から企業や団体単位での関わりが予想以上に増えている。そして、広域の連携も大きな成果だ。温泉MaaS開発も市バスやしなの鉄道を加えることでさらにインパクトのあるDX活動につながっている。

(別記様式第12号) (第3の8関係)



【長野地域】

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括(案)

事業名	ひとづくり・まちづくり in ちくま未来大学(仮称)
事業主体 (連絡先)	一般社団法人ちくま未来戦略研究機構 (長野県千曲市桜堂 512)
事業区分	8 その他、地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業 (1 地域協働の推進に関する事業、3 教育、文化の振興に関する事業、6-ウその他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業)
事業タイプ	ソフト / ハード / <input checked="" type="checkbox"/> ソフト・ハード (該当項目に○印を記入)
総事業費	3,826,227 円 (うち支援金 : 2,813,000 円)

事業内容

- 自分たちの地域を広範な市民の皆さんとコラボしつつ、地域人材を活用したまちづくり・ひとづくり事業を実施
- ・ちくま未来戦略サロン～地域課題や提案をテーマに6回開催
  - ・ちくま未来塾～新たな産業技術の習得講座及び藻谷ゆかりさんによる経営革新講座の開催。延べ2回開催
  - ・市民まなび塾～ニーズが高まるスマホ・IT等の講座を開催
  - ・若者社会活動支援～屋代駅等での音楽ライブ活動に支援
  - ・ちくま未来教室の開催～夏休みの18日間学童に開放
  - ・ちくま検定教材補充調査～webによる検定テキストの修正
  - ・シティプロモーションの実施～ちくま未来新聞の毎月発行
  - ・一重山プロジェクト～問題提起と現地整備等開始
  - ・市総合計画・中心市街地活性化基本計画等の研究・提言



【ちくま未来塾・ドローン座学】

【目標・ねらい】

- ①市民による未来戦略の構築
- ②まちづくり意識の高揚
- ③子どもたちの健全育成
- ④中心市街地の活性化

×事業効果

- ・街の未来に対する市民の意見交換や交流が促進され、市民との協働によるまちづくりの一助となった。
- ・市民目線に立った将来ビジョンづくりや地域づくりへの意識が向上した。
- ・街なかでの居場所づくりを通して、子どもたちのアクティブな行動が助長できた。
- ・ご当地検定実施資料の整備によって、地域の姿やデータを公表。郷土学習への大きな下地になった。
- ・市民目線に立った「ちくま未来新聞」の発行により、地域の細かな動きや話題を市民に提供。まちづくりへの意識と関心が高まった。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・コロナウィルスの影響が続き、計画の進行が阻まれているが、まちづくりへの関心及び参加意欲は確実に高まってきている。

今後の取り組み

来年度は3年間に及ぶ本事業の一応の区切りを図り、「ひとづくり」を通じての「まちづくり」との基本的視点に立った事業展開にアップデートしていく。このためのプラットフォームとなる、仮称「ちくま未来大学」を開設し3年間の事業を包含したアカデミック事業を推進する。主要事業のちくま未来新聞発刊については、経営の安定化を進めるため、広告収入等自主財源の増強を図るとともにWEB等の新たなメディア活用等全世代に向けた情報発信の機能強化を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある